

令和8年1月16日

三浦市議会議長 神田 眞弓 様

議会運営委員会

委員長 長島 満理子

令和7年度 議会運営委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和7年11月10日(月)・11日(火)

2. 視察地

滋賀県日野町

滋賀県栗東市

3. 視察参加者

議会運営委員会

委員長 長島満理子

副委員長 草間 道治

委 員 森谷久一郎 石崎 遊太 千田 征志

出口 景介 小林 直樹

議 長 神田 眞弓

随 行 福田 正雄 高田 美緒

4. 視察事項

◇ 滋賀県日野町

議会改革の取組について

◇ 滋賀県栗東市

議会改革の取組について

5. 視察目的

三浦市議会では、三浦市議会基本条例に基づき「市民に開かれた、市民のための議会」を目指した取組を進めています。その中で、議会報告会などの市民意見を市政に反映するための取組や議会運営に資するため、滋賀県日野町議会及び栗東市議会を訪問し、当市議会の運営に生かせる事例などを調査します。

【11月10日(月)】

(日野町HPより)

■ 滋賀県日野町の概要

- ・ 面 積 117.6平方キロメートル
- ・ 人 口 20,509人(令和7年10月1日現在)
- ・ 世 帯 数 8,880世帯(〃)

■ 市の概要

時代の変化に対応しだれもが輝きともに創るまち日野



滋賀県の南東部、鈴鹿山系の西麓に位置する東西14.5km、南北12.3km、総面積117.60平方kmの町です。霊峰・綿向山を東に望む日野町は、町の花である「ほんしゃくなげ」が咲き誇る、無限の大地が育んだ自然環境に恵まれた町です。



この地に人が住み始めたのは古く、今から約1万2千年前とされています。旧石器時代の終わりから縄文時代の始めころ狩猟や採集生活を、さらに弥生時代には稲作も始められていた記録があり、飛鳥時代には百済の文化が持ち込まれました。

やがて、室町時代、蒲生氏の城下町となって大きく変貌を遂げ、歴史の表舞台に登場してきました。町の繁栄の基礎を築いた蒲生氏は400年以上この地を治め、商工業の保護・育成に努力し、鉄砲や鞍などを特産品として生み出してきました。その蒲生一族の中で、いまでも日野の人々の心に生きているのが蒲生氏郷公であります。信長の娘冬姫を妻とし、その後秀吉に従った氏郷は産業政策においても秀でており、日野に楽市楽座を開きました。その後松阪12万石、会津92万石の藩主となりますが、日野の人々はなおも慕い続けました。



江戸時代に入って、漆器や薬売りの行商から発展した日野の商人は近江商人の基礎を確立し、その中心の町として繁栄、全国各地に商圏を伸ばす近江日野商人として名をとどろかせていきました。

明治22年に町村制を敷き、昭和30年に郡内の6ヶ村と合併し現在の行政区となっています。

平成9年に農業公園「ブルーメの丘」を、平成12年には、森林体験施設「グリム冒険の森」をオープンし、都市と農村とのふれあいを目指した施策展開を図っています。



ブルーメの丘



グリム冒険の森

中世ドイツの農村を思わせる公園であるブルーメの丘は、文字どおり花の丘として四季を通じて花が楽しめるほか、パンやソーセージづくりの体験や、近江牛のバーベキューを堪能するなど、家族揃って大いに楽しめる観光スポットとして、県内はもとより京阪神や中京方面から多くの観光客を受け入れています。

また、グリム冒険の森は森林の持つ多面的な役割を多くの人々に知って頂くため、林業構造改善事業の一環で設置したものであり、コテージやバンガロー、オートキャンプ場のほか野外ステージや森林浴ができる散策道も整備、家族連れや青少年に大変好評です。

日野町は「時代の変化に対応しだれもが輝きともに創るまち“日野”」をキャッチフレーズに、先人から受け継いできた精神や知恵を大切に生かし、福祉の向上、青少年の健全育成、さらには安心で安全・元気なまちを目指し、持続発展可能な「自律のまちづくり」に取り組んでいます。

■ 日野町議会の概要

- ・ 議員数 14人
- ・ 委員会 (常任委員会)
 - 総務常任委員会 (8人)
 - 産業建設委員会 (8人)
 - 厚生常任委員会 (8人)
 - 議会広報常任委員会 (7人)
 - 議会運営委員会 (7人)
- (特別委員会)
 - 予算決算特別委員会 (13人) ※議長を除く議員
 - 地域振興対策特別委員会 (13人) ※議長を除く議員
 - 議会力向上特別委員会 (13人) ※議長を除く議員

★日野町議会HP

<https://www.town.shiga-hino.lg.jp/category/32-3-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>



日野町役場庁舎 4 階案内図



滋賀県日野町

議会改革の取組について

●視察先対応者

進行：園城 久志事務局長
説明：杉浦 和人議長（挨拶）
野矢 貴之副議長
後藤 勇樹議会運営委員長
谷口 智哉議会力向上委員会副委員長
藤澤 絵里菜書記

●視察訪問先

日野町役場



●視察概要

■議会改革について

野矢 貴之副議長より、日野町での取組について次のとおり説明を受けた。

1. 出前懇談会

議会改革の取組の一つとして、町政の課題等について議員が直接住民のところまで出向き、意見を聴く機会を創出することを目的に、令和6年4月から実施している。

各自治会長、議会のウェブサイト、議会だよりなどで周知を行っているが、これまでの実績は、民生委員児童委員との意見交換の1回のみである。周知が足りず、申し込みが少ないことが課題。

懇談会の実施により、活動の内容や町政に対する意見等を議員が直接聞くことができ、常任委員会等での情報共有と当局への問い質しにつながった点は成果である。

その他、関連する取組として、毎年、各常任委員会で意見交換会を行っている。意見交換の相手方としては、「二十歳のつどい実行委員会」や「消防団」などの実績がある。また、従前、会派控室のような施設はなかったが、令和6年3月に、議会フロアである庁舎4階に、住民の声を聴くための場所として、議員相談室を設置した。

2. 議員の発言力の強化について

本会議での討論の中で、不適切な発言があったことから、議員全員に発言力の強化（発言内容の論理的整理、的確に相手方に伝えるスキルの向上など）を促すために通達した。

関連した取組として、各定例会の終盤に開催する議会力向上特別委員会において「〇月議会を振り返って」として全議員で課題等を共有している。また、令和7年9月30日には、新たな試みとして、9月定例会の一般質問について、各議員が質問に至った経過や導き出したかった答弁などを発表し、他の議員からアドバイスする「振り返りの勉強会」を実施している。

3. ICT推進の取組について

令和7年3月からタブレット端末を導入。サイドブックスとラインワークスを活用している。

予算・決算に係る事項別明細書は紙媒体を併用しており、ペーパーレス化に向けては引き続きの検討課題となっている。また、データの送受信については、引き続きEメールが活用されている。

4. 通年議会の導入について

議会の機動的な対応力の向上、議員による政策立案・行政監視機能の強化、議員活動の充実を図る観点から導入を検討していた通年議会について、先進地視察を通じ、その実効性が確認されたことから更なる検討を進め、令和7年6月からの導入に至った。

導入により、各種研修会や勉強会の開催、委員会活動の活性化が見られる。原則として今までどおりの議員活動を大きく変えることなく、より迅速に、より柔軟に活動することを目指しており、現時点では大きな課題はない。

5. 議会改革特別委員会の取組について

視察を行った先進議会を参考に、4つのプロジェクトチーム（①ICT②通年議会③待遇改善④広報公聴）を議会改革特別委員会内に設置した。定例会休会中に、各プロジェクトチームで責任をもって素案を作り、情報共有や決定事項は定例会中の議会改革特別委員会にて全議員で協議し決定する仕組みとしている。

また、令和7年度から、（一社）地方公共団体政策支援機構と「政策立案のためのアドバイザー契約」を結んでおり、外部からの専門的知見を得るとともに政策立案能力の向上を図るため、全議員を対象とする研修を年4回実施している。

《ICTプロジェクトチーム》

タブレット端末の導入に係る仕様等を検討

《通年議会プロジェクトチーム》

プロジェクトチーム内での通年議会に係るメリット・デメリットを検討し、勉強会を行った。また、導入に係る議員アンケートを経て、令和6年12月の議会改革特別委員会において通年議会導入を決定、同年5月の本会議にて正式に決定し、同年6月から通年議会が施行された。

《待遇改善プロジェクトチーム》

「議員活動と暮らしを両立できる議会」、「議員のなり手不足解消」を目標に、待遇改善プロジェクトチームを中心に検討を進め、全議員による活動量調査を行った。結果、報酬が活動量に伴っていないことが確認されたため、町の特別職報酬等審議会を経て、令和7年4月から月額報酬が引き上げられることとなった。

《広報公聴プロジェクトチーム》

議会への関心が高まるよう、図書館や町内7公民館において議会活動PRを実施。その他、出前懇談会の立案、町公式ウェブサイトの改良について検討を進めた。

6. 政策提言について

これまでに、「定住・移住の促進に関する提言（平成29年5月11日）」「政策提言『一人一人が輝き持続可能で誰もが元気に暮らせるまち“日野”に』（令和5年4月11日・地方創生特別委員会）」など、町長に対し、積極的に提言書等を提出しているが、各期の総まとめとして、任期の終わりに提出されることが多い。

このほかにも、令和6年12月には、議会改革特別委員長から町長に対し、監査委員事務局の適正な配置に関する申入書を提出し、令和7年度から議会事務局職員の併任から独立した職員配置とされた実績がある。

■主な質疑応答

Q：プロジェクトチームを発足することによるメリットは。

A：特にICTに関するものなどは、全ての議員で話し合っていると時間を要する。プロジェクトチームが素案を作り、それをもとに検討することは、プロジェクトを前に進めることに効果がある。

Q：通年議会の導入による効果は。

A：首長による不必要な専決処分を防ぐことはできる。また、地方自治法第180条による専決処分を行った際の報告が速やかに行われるのも良い点である。

Q：通年議会の導入により、議員としての稼働日数が増えると思われるが、他の仕事に従事している兼業の議員等の懸念や反発はなかったか。

A：・通年議会の導入前である一昨年については、年間271日の稼働実績があり、自身としてはあまり影響を感じていない。

・専業の議員が、議員報酬で生活が成り立つように、月額30万円まで報酬額の引き上げを行いたい。稼働日数を上げて、それに見合うように報酬額を上げるという考え方である。

・事務局の業務量も増えるため、議長の随行を減らすなどして対応している。

Q：議員相談室の運用方法は。

A：ラインワークスの施設利用に関する機能を使用している。

Q：定例会後の「一般質問に関する振り返りの勉強会」の効果は。

A：9月から行っており、これから、効果を測っていく。全員参加で行うため時間がかかるが、前向きに行っている。

Q：アドバイザー契約の内容や効果は。

A：議員14人に対する契約で、60万円程度の金額である。年4回の研修会のほか、委員会への陪席もしてくれることになっている。議会力の向上のため、来年度以降も継続することを考えている。

Q：常任委員会が3委員会あるが、議員定数から考えると大変ではないかと思う。議会改革の一環として委員会数を増やしたのか。

A：昭和50年台から3委員会を維持している。

Q：町長に対して提出された政策提言について、その後の取組につながったなどの成果はあるか。

A：幅広い提言をしており、全てではないが、つながっているものもある。

Q：議員全員が参加する反省会などを行っているというが、会派間の調整等はどうしているのか。役職や役割などはどのように決定するのか。

A：会派制を採っているが、役職等の決定は会派割にはしていない。





【11月11日(火)】

■ 滋賀県栗東市の概要

(栗東市HPより)

- ・ 面積 52.69平方キロメートル
- ・ 人口 70,311人(令和7年10月1日現在)
- ・ 世帯数 30,576世帯(〃)

■ 市の概要

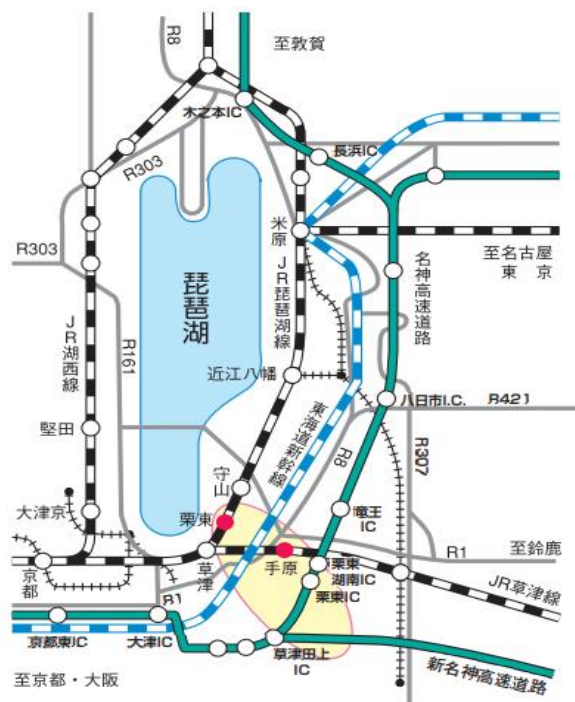
栗東市は広域的には京阪神都市圏の東北部の外縁部にあたり、大阪市より60キロメートル、京都市より25キロメートル、名古屋市より85キロメートルの距離に位置しています。また、滋賀県南部の湖南地域に位置し、東部を湖南市、西部を大津市と草津市、南部を甲賀市、北部を守山市と野洲市に接しています。

市域は東西に6キロメートル、南北に14キロメートルで、面積は52.69キロメートル、北部は平たん地、南部は金勝山を中心とする緑豊かな山地となっています。

古来より東海道、東山道(中山道)が通り、現在も市の北部を東西方向にJR東海道新幹線、JR琵琶湖線(東海道本線)、名神高速道路、国道1号・8号など国土幹線が横断するなど、交通の要衝に位置しています。

平成13年10月1日に単独市制により県内8番目の市「栗東市」として新たな歩みを始めました。

栗東市は、全国的にも高い合計特殊出生率を誇り、平均年齢の若いまちであるものの、近年、人口増加傾向が鈍化し、横ばいの状況となっていますが、交通の要衝としての地理的優位性や全国に2か所しかない日本中央競馬会の調教施設や歴史・文化・都会に近い豊かな自然などの地域資源を活かしつつ「積極的に先を見据えた新たな時代の栗東(まち)づくり」に取り組んでいます。



市の木 貝塚伊吹



市の花 キンセンカ



市の鳥 メジロ

■ 栗東市議会の概要

・ 議員数 18人

・ 委員会 (常任委員会)

総務常任委員会 (5人)

環境建設常任委員会 (6人)

文教福祉常任委員会 (6人)

予算決算常任委員会 (17人)

(特別委員会)

議会広報編集特別委員会 (6人)

議会改革特別委員会 (17人)

環境センター整備特別委員会 (8人)

決算特別委員会 (16人)



★ 栗東市議会HP

<https://www.city.ritto.lg.jp/shigikai/index.html>



滋賀県栗東市

議会改革の取組について

●視察先対応者

進行：高田 正敏議会事務局長

挨拶：里内 英幸議長（挨拶、栗東市の紹介）

説明：上田 忠博議会改革特別委員長

●視察訪問先

栗東市役所



●視察概要

■議会改革について

上田 忠博議会改革特別委員長より栗東市議会での取組について、次のとおり説明を受けた。

1. WEBでつなぐオープン・ザ・議会

栗東市議会では、平成25年から議会報告会を行ってきたが、令和2・3年度は、コロナ禍により中止せざるを得なかった。

コロナ禍においても開催できる方法について話し合いを重ね、令和4年度は、YouTubeを活用した録画映像の配信により、各委員会の活動を発信することとした。

映像の作成は、議員自らが撮影、編集を行い、「あいさつ（約30秒）」「議会改革特別委員会（約5分）」

「総務常任委員会（約5分）」「環境建設常任委員会（約5分）」「文教福祉常任委員会（約5分）」「予算常任委員会（約5分）」「あいさつ（約5分）」の構成とした。委員会ごとに工夫を凝らし、現場で撮影をした映像は、分かりやすいと市民の皆さんからも好評であった。

この取組のメリットは、「市民の参加機会の拡大」「議会活動の情報発信向上」「議員の主体的な発信力強化」「コロナ禍でも継続可能な報告手段」である。YouTubeで配信することで、場所や時間に縛られず誰でも視聴可能になり、参加のハードルが下がり、開催日程や場所の制約などの今までの議会報告会の課題が解消できる。

また、各委員会が映像を通して活動内容を報告することで、議会の動きが市民に分かりやすく伝わりとともに、議員自身が企画・撮影・編集を手がけることで、議員の個性や熱意が伝わりやすくなる。

一方でデメリットとして、インターネット環境がない市民や高齢者層にはアクセスが難しく、デジタル環境への依存による情報格差が生じる可能性がある。

また、映像配信は一方通行になりがちで、リアルタイムでの質疑応答や意見交換が難しいなど、双方向性の不足も課題である。

映像制作を議員が担うため、時間的・技術的な負担の増加もあり、コンスタントに開催することが難しいが、活性化していきたいと考えている。



2. ワールドカフェ方式による議会報告会

令和5年に議会改革特別委員会の研修「対話による議会基本条例の評価・検証」を行い、ワールドカフェ方式のワークショップや、会話のきっかけをつくるためのツールである「SOUNDカード」を使用したワーク

ショップを議員が体験した。これをもとに、令和5年度議会報告会として、子育て世代を対象にしたワークショップ（語ろう！「私が思う子育てしやすいまち」）を行った。続く、令和6年度には、市内の若者（高校生）世代を対象にしたワークショップを3校で開催した。

開催に当たっては、親しみやすい空間となるよう、お茶やクッキーを準備したほか、会場を装飾したり音楽をかけるなどの工夫をした。また、議員の服装は普段着とした。開催日は、平日の午前中とし、子どもの同伴参加を可能とし、託児所を設置するなど、対象である子育て世代の参加に配慮した。

広報は、市の広報紙、Facebook、議会ウェブサイト、市内鉄道駅・市内主要施設・保育園・幼稚園へのポスター提示、チラシ配布、児童館・コミセンだよりへの掲載依頼、子育て世代が集まるイベントを行う部署への協力依頼、庁舎デジタルサイネージ、マスコミへの情報提供など、様々な手法を活用した。また、WEB申込フォームを活用し、QRコードをチラシに掲載した。

当日は、第1部を議会報告会として各常任委員会から報告（5分×4委員会）を行い、10分間の休憩・お茶タイムを挟んで、第2部にワークショップを行った。なお、高校生を対象とした報告会は、第1部の報告は行わず、第2部のワークショップによる対話のみとした。

いずれも、参加者の意見を目に見えるようにどのように反映していくのが課題である。



3. 子ども議会・夏休み親子見学ツアー

以前は、市内小学校9校から各2名が参加し、子どもたちによる模擬議会を行い、市に対する質問、提案をしてもらっていた。令和2年度から4年度には、コロナ禍により開催を中止したが、令和3年度には、これに代わるものとして議会の紹介動画を作成し各学校に配布した。

コロナ後の令和5年度は、翌年度に向けて議場見学ツアー開催の準備や研修を行い、令和6年度以降「夏休み親子議会見学ツアー」を開催している。栗東市議会基本条例が目指す「市民によく見え、魅力ある議会」を築くため、次代を担う子どもたちとその保護者を対象に実施している。



内容は、「あいさつ・議員自己紹介」「グループごとの議会探検」「集合写真撮影」「自由時間」「修了証授与」「議長あいさつ」だが、議会ノートのような穴埋め式のノートを作成して配布し、子どもたちがツアーを通して完成させると、議会のことが1冊にまとまり、夏休みの自由研究として提出できるようにしている。

子どもたちが議会ノートを持ち、クイズ（穴埋め式）を解きながら各スポットを探検してまわる。各スポットでは、議長（議長室）、議運委員長（談話室）、委員長（協議会室）等からの話があり、その話の中にクイズのヒントがある。

撮影した全体写真を入れた修了証とし、記念になるようにしている。

栗東市議会主催

自由研究にしよう！

夏休み

親子議会見学ツアー

日時：2025年 **8月2日**（土）
10:00～12:00（受付 9:40～）
場所：栗東市役所 **4階**
対象：小学5・6年生とその家族
定員：25組程度 ※応募者多数の場合は抽選

参加費無料！

申し込みはこちら

申し込み締め切り 7月18日(金)

広報りっとう掲載の締め切り日から
申込期間を延長しました！
みなさんのご参加お待ちしております！

【お問い合わせ】
栗東市議会事務局
TEL：077-551-0317
MAIL：gikai@city.ritto.lg.jp

クイズを解きながら議会を探検しよう！夏休みの自由研究としても、ぜひご参加ください。

4. ICT推進の取組について

タブレット端末を令和3年11月から試行導入し、令和5年4月から本格運用している。議案書や配布資料は電子化し、紙資料は原則廃止している。

グループウェアを活用したメール送受信やインターネット検索、庁舎外での調査活動にも対応しており、政務活動にも利用可能としているが、通信料の半額は議員負担としている。

また、議会DX研修として、令和6年にはITとDXの違いと重要性を学ぶ研修、令和7年には生成AI（ChatGPT）活用研修を実施し、議会質問原稿の改善演習などを通じて実務活用を模索している。

ICT推進により、業務効率化や議会改革の推進が図られた一方で、ITリテラシーの格差により、全体の活用度に差が生じている。試行段階での意見を踏まえ、運用方法の見直しが継続的に行われているが、今後も柔軟な制度設計が求められている。活用が始まったばかりのChatGPTについては、議会内での利用ルールや倫理的なガイドラインの整備も今後の課題である。



■主な質疑応答

Q：WEBでつなぐオープン・ザ・議会の動画について、更新はされていないのか。

A：予算を使わずに手作りで作成しているため、制作には労力がかかり、対面式の報告会と両方の運用はなかなか難しい。



Q：子育て世代とのワークショップのタイムテーブルを拝見すると、SOUNDカードを練習と本番の2回使用されている。これは、それぞれ別のものなのか。

A：SOUNDカードを初めて使う方が多いので、まずは簡単な「今日食べたもの」などの内容のカードで練習を行う。その後、本番には、「まちづくり」をテーマとして、SOUNDカードを使用してワークショップを進めていく。

Q：議会報告会のテーマについて、三浦市では大きいテーマを設定して実施している。栗東市では委員会ごとにそれぞれ報告をされているそうだが、テーマが広がりすぎるようなことはないか。

A：あまり長い時間報告をしても、聞き手の集中力は、概ね5分間が限界ではないかと思う。各委員会に任せているが、大体1～2事業に絞り込んで報告をしている。

Q：タイムテーブルを拝見すると、SOUNDカードを使って行う本番にあたるワークショップの時間が、10時54分から11時17分とされている。実際に行ってみて、この時間が短いということはないか。

A：ワークショップでは、カードを引いて、あまり考えすぎずにそれぞれが話し、模造紙に書いていく。それぞれが長く話すことはあまり想定していないが、どうしても喋り出すと長くなるということもあるため、もう少し時間があってもよかったかもしれない。

Q：テーブルごとのファシリテーターの力が求められると思う。SOUNDカードを用いることで進行はスムーズにいくものか。

A：事前に外部講師を呼んで研修を行っているということもあるが、元々そのような能力に長けた議員がいるため、議会内での研修も行っている。

Q：議会報告会のテーマを定め、対象者を絞ることに課題はないか。

A：全市民を対象とすべきとの考えもあるが、令和5年の改選により若い方や女性の議員が増え、公平性を求めることに囚われすぎず、まずは「やってみよう」というところである。

Q：議会報告会は、どうしても要望を受ける場になってしまうが、意見交換の場とするために工夫していることはあるか。

A：寺子屋方式の従前の議会報告会ではなく、ワークショップとすることで、参加者の心理状況は違ってくるようである。ワークショップにおいて、グループ内で自分の意見として発言をすることで、すっきりとするのか、事後の対応につながるような要望はあまりない。

Q：議会報告会での託児サービスはどのように行っているのか。

A：保育士のOBなどのボランティア団体に協力してもらった。実際には、お子さんを膝に乗せたままで参加されている方も多かった。

Q：夏休み親子議会見学ツアーの資料（議会ノート）は学習教材のように良くできていると感じるが、これは、教育関係の知見がある方が作成しているのか。

A：私（上田議員）が作成しているが、特に教育に従事している訳ではない。

なつやす おやこぎかいけんがく
夏休み親子議会見学ツアー
令和7年8月2日(土)

しょうがっこう
小学校

ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

ぎかい
の議会ノート



議会見学ツアー



行政視察の成果について

議会運営委員会行政視察報告

議会運営委員長 長島 満理子

滋賀県日野町議会

・日野町議会の議会改革の取組みについて

議会が直接出向き、議会出前懇談会を実施している。令和6年4月から実施し、1回目は民生委員児童委員との意見交換を開催した。

どう交流していくのか、地域の活性化になる話をし、要望などは受けないようにした。

常任委員会で、懇談会を実施し、当局との情報共有体制を作っている。課題は開催の周知が足りず申し込みが少なかった。



議会資質向上の取組として、全議員対象の研修を実施している。政策立案のためのアドバイザー契約をし、年4回の研修を行っている。

各定例会後、「議会を振り返って」全議員で課題等を共有、また一般質問について、各議員が質問に至った経緯などについても他議員からアドバイスをする「振り返り勉強会」を実施している。

一般質問を通して成果を出していくことが、質の向上につながっていく。

一般質問等で質問したことが、どうなっていくのか、追跡をする。市民に開かれた議会というよりは、市民に届ける議会を目指している。

報告会は常任委員会で開催するのは新たな試みではないかと思った。

政策提言を提出し、町長へ伝えることで、内容が幅広くつながっていく。

研修により、議会の質の向上につながっていくと感じた。

また、議会だよりも一般質問はすべての議員1ページにまとめ、ほかにも議会情報が多く掲載され工夫がみられた。

滋賀県栗東市議会

・「議会改革の取り組み」について

WEBでつなぐオープン・ザ・議会について、議会内容の報告形式で参加者は傍聴する内容になっている。参加者が少ない場合は議員個人の参加依頼をし、市民からの質問は要望が多いと本市や他市との同じような課題がある。令和4年度は、YouTubeで録画映像の配信を行ったが、議員が撮影や編集を行うため、現在まで更新はされていない。

議会報告会の更なる発展を考え、ワールドカフェ方式を取り入れ実施した。

議会に興味を持って欲しいなど、議会との接点が少ない層の意見が聞きたいということで、要望ではなく、意見交換の場となることを考え、ワールドカフェ方式、ワークショップ、対話の手法などを議論した。

議会では、「ワールドカフェ方式」のワークショップを開催し、議員研修を実施した。

講師を招きワールドカフェ方式のワークショップ体験や議員間討議をテーマに研修を実施した。

議会報告会は、対象を子育て世代や若者（高校生）を対象に開催した。

若者世代は授業の時間や放課後に生徒会に依頼し開催した。

報告会で出た意見をどう反映するか、目に見えるような発表が課題である。

子ども議会・夏休み親子見学ツアーについて 学校や教育委員会に協力をしてもらい、開催している。見学ツアーノートを作成に夏休みの自由研究に使えるような工夫をしている。

本市も議会報告会のやり方について課題がある。ワールドカフェ方式で参加者と気軽に意見交換ができるやり方、議員の研修など本市でも取り入れられることはやっていけたらと感じた。

滋賀県日野町、滋賀県栗東市行政視察を終えて

副委員長 草間 道治

本市議会では、平成26年3月に「市民に開かれた、市民のための議会」を目指して三浦市議会基本条例を制定しました。この条例では、本会議での「一問一答方式」の導入、議会報告会の開催、議会だよりやウェブサイトでの議員の表決態度の公表、本会議の生中継や録画映像の配信などの取組が定められています。制定から10年が過ぎ、いくつかの課題がありその中では特に、議会報告会の開催等の課題解決に向け、滋賀県日野町と滋賀県栗東市における議会改革の取組について行政視察を行いました。



初日に訪れた日野町議改革の取組については、出前懇談会の開催については、特定団体との意見交換・町政課題とについて議員に直接聞く機会の創出を行っていました。課題については周知が足りず、申込みが少ないとのことでした。

その他、政策提言について、議会のICT推進の取組や通年議会の導入の取組がおこなわれていました。そのなかで、議員の発言力の強化についての取組では、議会力向上特別委員会において新たな取組として「9月定例会議の一般質問について、各議員が質問に至った経過や導き出したかった答弁などの発表をし、他の議員からアドバイスする「振り返りの勉強会」実施をしていることが説明されました。

二日目に、訪れた栗東市議会の議会改革の取組については、議会改革特別委員会の取組として、WEBでつなぐオープン・ザ・議会、子ども議会や議会ICT推進の他、議会報告会（ワールドカフェ方式）の説明では、子育て世代とのワークショップの取組や若者を対象とした地元高校に対するワークショップを高校の授業として開催していることや、第一部議会報告では各常任委員会でそれぞれテーマを決め報告をしていることや、ワークショップでは「SOUNDカード」を利用して話題の起点、スタートするなど、についてはユニークな取組でした。

今回の視察で訪れた日野町議会、栗東市議会のそれぞれの「議会改革の取組について」行政視察をさせていただき大変ありがとうございました。

今後の、本市議会の議会改革の取組の参考にさせていただきます。

令和7年度三浦市議会 議会運営委員会行政視察報告

森谷 久一郎



1 滋賀県日野町

テーマ 議会改革の取組について

○日野町議会の取組

14名の議員構成で、少ない議員数であるが、様々な新しい取組みを行っている。

なかでも、出前懇談会は、町民側の団体や組織からのリクエストに応じて、議員チームを編成し、会場も役所ではなく外に出て、町政に対する意見等を直接聴取し、施策に活かしていく取組で、常任委員会ごとに行っている意見交換会を補完するものである。

また、議員に個別に相談できる「議員相談室」を議会フロアに設置しているのも新しい取組である。

さらに議会力向上特別委員会において、各定例会終盤の時期に、定例会を振り返りする場を設けていることや、各議員の一般質問について、質問に至った経過や導き出したかった答弁を話し合う「振り返りの勉強会」も参考になる取組である。

○課題

出前懇談会は、スタートしてからの実績は1回のみとまだ少ないが、意見交換会としては定例的に開催しており、それに参加が困難な町民の意見を聞く取り組みとして、必要なものと感じた。

今後、より町民への広報による周知拡大が必要と分析しており、状況は三浦市も変わらないと思われた。

○三浦市での応用について

三浦市議会で行っている議会報告会は、毎年試行錯誤を繰り返しながらより良いものを作ろうとしているが、日野町の出前懇談会も1つの手法であると思われる。

また、定例会の振り返りや、一般質問に関する振り返りなど、三浦市でも導入可能な取組と思うが、導入するにあたっては、各会派の合意形成等に難航することが考えられる。

2 滋賀県栗東市

テーマ 議会改革の取組について

○栗東市議会の取組

18名の議員で、議会改革特別委員会を中心に様々な改革に取り組んでいる。

コロナ禍で、従来型の議会報告会が開催できなくなった際の工夫として、令和2年・3年度に「WEBでつなぐオープン・ザ・議会」と銘打ち、各委員会の報告を中心とした構成でネット配信を行った。

令和4年度から議会報告会が復活したが、従来の報告型のみでなく、議会を身近に感じてもらう取組としてワールドカフェ方式を導入して、対話に重点を置いた方式に転換した。

参加対象を、子育て世代、高校生世代などに絞り込み、参加者に合わせたテーマ設定で、話のきっかけづくりとなる「SOUNDカード」を活用して、議員と参加者の対話で展開した。

また、小学生向けには、「子ども議会・夏休み親子見学ツアー」を開催し、議会・議員を身近に感じてもらえるよう取り組んでいる。

○課題

予算の制約があり、映像コンテンツの作成等が議員の負担になっている。

○三浦市での応用について

栗東市議会の取組は、三浦市議会においても十分に導入できるものである。

今後、各議員の合意形成のうえで、導入を検討すべきと考える。



議会運営委員会 視察報告書

石崎 遊太

【滋賀県日野町】

特徴的な取り組み

① 一般質問の振り返り・勉強会

定例会後、議員全員で一般質問を振り返る勉強会を実施している。各議員が「質問に至った経緯」「導きたかった答弁の方向性」などを共有し、相互に助言し合う場となっている。

こうした機会は会派内で自主的に行われることは多いが、議会全体で制度化しているのは極めて珍しい事例である。“質問して終わり”になりがちな一般質問だが、このプロセスを設けることで、行政サイドへの牽制にもつながると考えられる。



② 通年制議会の導入

通年制議会を採用し、議会としての機動力強化と議員活動の充実を図っている。通年制議会は閉会中の期間が存在せず、必要に応じて随時、本会議や委員会を開ける仕組みである。会期が定められている会期制に比べ、審議時間の確保、市側の専決処分への抑制、災害時などの突発案件への即応性といったメリットがある。

③ 政策立案に向けたアドバイザー体制

一般社団法人地方公共団体政策支援機構とアドバイザー契約を結び、年4回の全議員研修を実施している。外部専門家の知見を積極的に取り入れ、議会全体の政策立案能力向上を図っている。

日野町の議会改革への所感

日野町の改革は、議会の質を内部から鍛え直す姿勢が徹底されていると感じました。特に通年議会導入の判断には率直に敬意を覚えました。通年議会は大規模自治体では珍しくなくなりつつあるものの、日野町の議員報酬水準では兼業前提での活動が一般的であり、拘束時間が増える通年制の導入は容易ではありません。そのような状況の中でも、議員としての資質向上を最優先に自ら負荷をかけ、制度改革に挑んだ点に深く感銘を受けました。また、日野町では会派（政党）間の縦割りがほとんど見られず、議会全体で改革に取り組む結束の強さがうかがえました。こうしたフラットな

関係性が、多様な改革を可能にしているのだと感じました。

さらに、個人的には、議員の資質向上と議会活動の充実、ひいては有権者が選挙の際に現役議員の資質を判断する材料という観点からも、三浦市議会では政務活動費を少額でも創設すべきだと考えています。（なお、県内で政務活動費が支給されていない市は三浦市のみ）しかしながら、この議会費の使い方としては、政務活動費のように個人へ支給する形だけでなく、日野町のアドバイザー契約のように“議会全体の能力を底上げする”方向で活用する考え方もあり得ると感じました。

【滋賀県栗東市】

特徴的な取り組み

① WEBでつなぐ「オープン・ザ・議会」

議会報告会をオンラインで開催し、YouTube等を通じて市民がいつでも視聴できる環境を整備した実績がある。企画・撮影・編集を議員自らがを行い、常任委員会ごとに工夫して議会活動を発信している。

② ワールドカフェ方式の議会報告会

議会報告会を「双方向の対話の場」として進化させ、ワールドカフェ方式を採用。BGMやお茶菓子、普段着での参加など、リラックスした雰囲気ですら直な意見交換を促す工夫が随所にある。

③ 子ども議会・親子体験ツアー

小学4～6年生と保護者を対象にした「議場探検ツアー」を実施。子ども向けクイズ等を含む資料は非常に工夫されており、大人でも遠い存在になりがちな議会を一気に身近に感じられる内容となっている。子どもが議会を“自分ごと”として捉える入口となり、主権者教育や長期的な市民参加の基盤づくりにつながっている。

栗東市の議会改革への所感

栗東市の取り組みは、市民との距離を縮める議会改革が非常に明確であると感じました。議会報告会は有意義である一方、議会からの報告も市民の要望も“一方向になりやすい”という課題があり、三浦市議会でも長年議論されてきたテーマです。その解決の一手となり得る手法を学べたと感じました。

ワールドカフェ方式を導入するには、議員のファシリテート能力が不可欠であり、栗東市が使用しているSOUNDカードのような手法も含め、どう担保するかが鍵となります。また、オンライン議会報告会も、単なるコロナ禍対応ではなく、平時からの姿勢や技術がなければ実現できない施策です。

特に印象的だったのは、対話の要素を強めることで、市民の側にも“言いつぱなしにしないで進捗を追おうとする姿勢”が生まれたという点で、これは当初想定していなかったメリットとのことでした。議会が追うだけでなく、市民自身も議会を自分ごととして継続的に見ようとする契機にもなり、非常に示唆に富んだ内容だったと感じます。

広報・公聴資料についてもアナログ・デジタル両面で高いこだわりが見られ、こうした姿勢やスキルは大いに学ぶべき点だと感じました。

【全体を通しての所感】

両市に共通していたのは、「議会をより良い形で機能させる」という強い意思と、そのために必要な制度整備を継続して行っている点です。議会改革は単一の手法で完結するものではなく、内側（議員の質・能力向上）と外側（市民への説明責任・参画促進）の両面から進める必要があることを改めて実感しました。また、過去の視察報告でも触れてきましたが、他自治体の手法を表面的に取り入れるだけでは絶対にうまくいかないと確信しています。議会改革の土台にあるのは、一時的な制度導入ではなく、その背景にある議員一人ひとりの“覚悟”や“努力”、そして“地道な積み重ね”です。この根底を理解せず、形だけをまねても改革として機能しないという点を、今回改めて強く感じました。

表面的な「改革した感」ではなく、市民のために本当に必要な議会改革とは何か。今回得た学びを、三浦市議会の今後の取り組みの中でしっかりと活かしていきたいと思います。

議会運営委員会視察報告書

視察日 令和7年11月10日～11日
視察先 滋賀県日野町、滋賀県栗東市

千田 征志

1・滋賀県日野町議会改革の取り組みについて

初日の視察先である日野町は、滋賀県の南東部、鈴鹿山系の西麓に位置する東西14.5km、南北12.3km、総面積117.60平方kmの町です。霊峰・綿向山を東に望む日野町は、町の花である「ほんしゃくなげ」が咲き誇る、無限の大地が育んだ自然環境に恵まれた町です。

議会改革の取り組みについては、町のキャッチコピーである「だれもが輝きともに創るまち 日野」を念頭に、開かれた議



会の取り組みについての説明を受けました。先ず、私が感じた感想として、説明の議員さんが、町民の方を、（町民さん）と呼んでおり、親しみと共に、町民さんと議員の関係性が近い存在であることを感じました。それは、二日目の栗東市の説明議員さんも市民の方を市民さんと呼んでいることに地域性もあるのかと思いましたが、議員であっても、特別な存在ではなく、改めて、議員は市民に選ばれた、市民さんの代弁者だと、私自身も身の引き締まる説明会となりました。

日野町の議会改革の基本条例として、町民が求める住みよい町をつくるために、「議会は何をすべきか、どうあるべきか。」を確認し、議会および議員がその使命を果たすために、議会における最高規範として議会基本条例を定め、町政の情報公開と町民参加を原則とした、地方分権時代にふさわしい町民に身近な議会ならびに議員の活動の活性化、充実および資質の向上のために必要な議会運営の基本的事項を定め、平成23年4月1日に条例を施行しています。

とても参考になった議会報告会の取り組みとしては、議会からの一方通行の報告会でなく、町民の声を聞く為に、個々の政治活動とは別に、議会が一体となり議員チーム（若手チーム・女性チーム・農業チーム・地区チーム（日野、東桜谷、西桜谷、西大路、鎌掛、南比都佐、必佐）・総務常任委員会チーム（教育、文化、スポーツ、交通、自治会の在り方など）・産業建設常任委員会チーム（農林業、商工業、観光、建設など）・厚生常任委員会チーム（福祉、保健・衛生、環境など）・お任せランダムチームなど）として町政の課題等について住民のご意見等を直接お聴きする「出前懇談会」については、本市の議会報告会の今後の取り組みの参考となりました。

他にも、日野町議会では、議会の機能強化および町民への説明責任の一層の充実を図るため、令和7年6月1日から会期を約1年間とする通年議会を導入し、町長が提出する議案に対して十分な審議期間を確保し監視機能を強化することや、また、災害など突発的な事案や緊急の行政課題にも迅速な対応ができ、議会の機能強化に取り組んでいることも参考となり、説明も分かりやすく、とても良い視察となりました。

2・滋賀県栗東市の議会改革の取り組みの取り組みについて

栗東市は広域的には京阪神都市圏の東北部の外縁部にあたり、大阪市より60キロメートル、京都市より25キロメートル、名古屋市より85キロメートルの距離に位置しています。また、滋賀県南部の湖南地域に位置し、東部を湖南市、西部を大津市と草津市、南部を甲賀市、北部を守山市と野洲市に接しています。栗東市は全国的にも高い合計特殊出生率を誇り、平均年齢の若いまちであるものの、近年、人口増加傾向が鈍化し、横ばいの状況となっておりますが、交通の要衝としての地理的優位性や全国2か所しかない日本中央競馬会の調教施設や歴史・文化、都会に近い豊かな自然などの地域資源を活かしつつ「積極的に先を見据えた新たな時代の栗東（まち）づくり」に取り組んでいます。

議会改革の取り組みについては、これまでの取り組みとして、議員定数や議員報酬を自主的に削減するなど、「自らを律する 改革」をはじめ、議会改革特別委員会を中心として、議会改革に関する様々な取り組みを行っていること、栗東市議会基本条例の制定、地方分権時代にふさわしい議会を目指し、市民の皆さんにわかりやすく参画できる議会に、また、合議機関として一緒に考えながら十分な議論ができる議会に改革し、「市民によく見え、魅力ある議会」を築いていくことで、信頼される議会としてのあるべき姿と位置づけ、議員提案による『栗東市議会基本条例』を、平成26年4月1日から施行したと説明を受け、その中でも「子ども議会」、市内の小学6年生を対象に、「将来の栗東市を担う子どもたちが、自分のまちの姿をよく見つめ、市に対する自分の夢や希望を話してもらうことにより、子どもの市政への 関心と、まちづくりに進んで参画しようとする意欲を高める。」ことを目的として、平成24年度から年1回、市議会、市及び市教育委員会の共催により実施し、実際に市議会が行われる議場で議事が進められ、子ども議員は、自分たちの身近な問題や、市政に関する質問や提案などを行い、様々な工夫を凝らした取り組みがとても参考になり、本市でも実施が出来るのではないかなと思う説明でした。

市議会のしくみ『子ども向け市議会ガイド』の中では、小学生にも分かりやすい説明や保護者も参加して、栗東市のまちをより暮らしやすくするにはどうしたらいいか。市議会仕組み・市議会の役割等、議員が個々の役割を分担して、日野町議会と同じ様に、議会が一体となり、議会改革の促進に努力していることが分かり、私自身もそうですが、本市の議会における議会改革の改善点の参考となりました。まずは、行動することが大切だと痛感した

二日間にわたる視察となり、日野町、栗東市の視察受入れに御礼申し上げます。ありがとうございました。



議会運営委員会 視察報告

視察日時：2025年11月10日（月）～11日（火）

出口 景介

【1日目：滋賀県日野町議会】

議会改革の特長として「開かれた議会」ではなく「届ける議会」を目標に、議会基本条例の制定や議会事務局職員の人員増強、政策提言作成への取り組み、議員の一般質問力向上への取り組み、通年議会の導入やICT推進への取り組みなど様々なものがありました。

議会活性化への取り組みへの大きな流れは平成23年3月11日に日野町議会基本条例が可決されたことにあります。議会と執行側との関係を整理（反問権の付与、重要な計画、政策についての提案側の事前協議、議決事項の拡大、審議会委員など付属機関の委員就任の自粛など）し議会を開かれたものとして捉えるだけでなく、議会運営の内容を町民に「伝える」ために、平成28年12月には議会本会議でインターネット中継（ライブ・録画）システムの導入があります。また、令和元年5月15日には特別委員会の設置（議会改革特別委員会、地方創生特別委員会、総合計画特別委員会）をして議会の改革に拍車をかけました。特別委員会とは本来地域の課題などを解決するために立てられることが前提ですが、4年間の活動を経て現在は、議会改革特別委員会は議会力向上特別委員会、地方創生特別委員会から地域力活性化特別委員会、などに形を変え日々研鑽を積んでいるとのこと。

特筆すべきところは、①議会として政策提言をしているところです。

平成29年5月11日には、10年後の日野町を住み続けたいまちと思える政策を示した「定住・移住の促進に関する提言」の提出があり、令和5年4月27日には人口減少、地域産業・農業の存続の危機、空き家問題や過疎化問題なども含め構造的な課題に対し「一人一人が持続可能で誰もが元気に暮らせるまち“日野”に」というまちの地方創生として提言を取りまとめています。

「議会として」というのがポイントで、三浦市議会では議会報告会など議会全体で取り組んでいることはあるものの、議員個人の一般質問とは別に政策提言として議会全員で取り組んでいることが素晴らしいと思います。また、令和7年度には、政策立案のために（一社）地方公共団体政策支援機構とアドバイザー契約を行い年4回の研修を行っているそうです。議員活動をしていると、党派や議会の会派などそれぞれ



の立場があるものの会派党派を超えて一つの意見にまとめるのが大変難しい事だと感じます。その中でも日野町として圧倒的当事者意識をもって、議員全員で手を取り合うことは三浦としても大きく政局が動いた今だからこそ見習っていきたいと思います。

②として議員の発言力向上のために、議員の一般質問の後に全員で「振り返り勉強会」を行い、発言内容の論理的整理、的確に相手方に伝えるスキル向上を目指しているところです。14人一人一人の質問を皆でアドバイスし合うので時間はかかるのですが、何のために質問するのか、質問に至った経緯、導き出したかった答弁など、考えを整理することで議員の質問力が向上しているそうです。三浦では会派ごとに質問内容が重複することも多いため、どの切り口で質問するのか、導き出したい答えの精査など、皆で振り返りの時間を設けることは、議会全体益としては大いにあると感じました。こちらも今後どのような形であるにせよ、議員の質問力向上に関する研修などは三浦でも行いたいと思いました。

③点目は「通年議会」の導入です。日野町議会議員の報酬の中では厳しい状況とのことですが、定例議会だと議案の決議などが先延ばしになってしまうものも、会期を気にせず議会でじっくり議論をできるというメリットがあるとのことでした。三浦の隣市の横須賀市では通年議会を取り入れています。三浦市の体制として、兼業議員の時間の使い方、若手議員の立候補阻害の可能性、議員のなり手の確保などメリット・デメリットを引き続き慎重に検証していくべきと感じました。

【2日目：滋賀県栗東市】

議会報告会は三浦市議会でも形式について毎回議論が交わされますが、栗東市でも旧来の議会報告会では参加者が固定されてしまうことに加え、市民から質問ではなくその場で答えられない要望が多くなってきたことが課題ということでした。そこでコロナ禍を契機にyoutubeを活用した録画映像の配信を行ったそうですが、議員が自己編集などを行う関係で一部の議員に負担になってしまい令和3年度で一旦停止しています。その代わり、ワールドカフェ形式で議会の委員会報告とワークショップの2部制にした議会報告会を始めたそうです。最初は議員の方が進め方がわからないとのことで開催に消極的でしたが、ワークショップのファシリテーター研修ができる議員がいることで、議員全員での研修を行ったそうです。また、初対面の参加者がワークショップで意見を言いやすいように話題のネタになるような内容が書かれたカード「Soundカード」を用いることで、アイスブレイクを行い、市民同士の積極的な意見交換を促したそうです。子育て世代や高校生（若者）を対象に開催し、好感触を得たそうです。課題としては、議会報告会で出た意見を議員側がどう取りまとめ、対応していくかとのことですが、これは三浦の従来の議会報告会でも同様な課題が出ており、市民からいただいた意見をどう取り扱うのが良いのか引き続き議論を深めなければならないと感じました。

次に、議会改革の取り組みとして子ども議会・夏休み親子見学ツアーの開催はとても魅力的な内容でした。なぜなら、私は三浦市で以前開催していたみうらっ子議会に参加したことがあり、そのような経験も今の人生に生きていると感じています。だからこそ去年は青年会議所の活動として子ども基本計画の策定を契機にみうらっ子議会の復活を目指しましたが、三浦市主催のこどもまんなか市民会議が同時期に開催になってしまったため取りやめました。だからこそ、栗東市が開催している子ども議会・夏休み親子見学ツアーは『栗東市議会基本条例が目指す「市民によく見え、魅力ある議会」を築くため次代を担う子どもたちとその保護者に市議会や市政に理解と関心を深めて頂くために実施する』という目的に沿って、学校の教材のようなワークシート作成から、議会説明等、議員で役割分担をして開催をされていました。三浦市議会も次代の議員候補者の育成や市政への関心を高めるためにも、議会の活動を見学型や体験型として市民に向けて開催する必要があると改めて思いました。これら視察での学びを今後の議員活動に活かしてこうと思います。

議会運営委員会 行政視察 報告書

小林 直樹

1. 滋賀県日野町

〈視察事項〉議会改革の取り組みについて

(1) 出前懇談会

町政の課題等について、議員が直接住民のところまで出向き意見を聞く出前懇談会を行っている。

(2) 政策提言

2017年5月に「定住・移住の促進に関する提言」、2023年4月に政策提言「一人一人が輝き持続可能で誰もが元気に暮らせるまち“日野”に」を町長に提言した。

(3) 通年議会

2025年6月から議会の機動的な対応力の向上、議員による政策立案・行政監視機能の強化、議員活動の充実等を図るために通年議会を導入した。

(4) 今後、参考にすべき事項

日野町では、外部からの専門的知見を得るとともに、政策立案能力の向上を図ることを目的に、今年度、(一社)地方公共団体政策支援機構とアドバイザー一契約を締結し、年4回の研修を予定している。

三浦市議会でも、今以上に、政策立案能力を向上させるための取り組みが必要



である。

2. 滋賀県栗東市

〈視察事項〉議会改革の取組みについて

(1) 夏休み親子見学ツアー

「栗東市議会基本条例」が目指す「市民によく見え、魅力ある議会」を築くため、また、次代を担う子どもたちとその保護者に市議会や市政に理解と関心を深めてもらうために、昨年から夏休み親子見学ツアーを実施している。

対象は、小学校4年生から6年生の児童と保護者で、クイズを解きながら各スポットをまわる「議会探検」等を行っている。

(2) ワールドカフェ方式による議会報告会

議会と接点が少ない層の意見を聴きたい、議会に興味を持ってほしい、議会を身近に感じてほしい、直接話が聴きたい、そして、要望ではなく意見交換に重きを置くために、ワールドカフェ方式の議会報告会を2023年度から行っている。

ワールドカフェ方式だと、意見が出やすい雰囲気になるということだった。また、話しのきっかけを作る「SOUNDカード」を活用している。

(3) 今後、参考にすべき事項

三浦市議会も議会報告会を行っているが、報告をするテーマを決めて、その内容を説明する方式である。今後、気軽に意見交換ができる議会報告会にするために、ワールドカフェ方式を検討することも必要である。

議会運営委員会 行政視察

議長 神田 眞弓

1. 11月10日（月） 滋賀県日野町

議会改革の取組について

平成19年より議会活性化に取り組み、議員定数条例を改正、平成23年に日野町議会基本条例を制定されて以来、杉浦議長のリーダーシップのもと様々な取り組みがされました。そして、令和7年6月1日より通年議会制の導入。

議会報告会は、毎年各公民館で行っているが、各常任委員会で消防団や商工会等と出前懇談会を実施している。

本年より、政策立案のためのアドバイザー契約をし、年4回、全議員対象の研修



会を実施されている。

何事にも常に、前向きにとらえて、新たな試みとして、各議員が質問に至った経過や導き出したかった答弁などを発表し、他の議員からアドバイスをする「振り返り勉強会」を実施しており、この手法には少々びっくりしました。

今後の経過もぜひ伺いたいと思います。よろしくお願いします。

2. 11月11日（火） 滋賀県栗東市

議会改革の取組について

・WEBでつなぐオープン・ザ・議会

コロナ禍に行った取組だが、議会報告会の開催日程、場所による参加の制約や、参加者が固定されるなどの問題がない。

・子ども議会

以前は、模擬議会であったが、夏休み親子見学ツアーになった。

議会に興味を持ってもらえるように、クイズ形式のしおりを作成して、議会が身近に感じられるよう考えている。

・議会ICT推進

生成AIの活用研修を実施して、議員の情報収集や発信力の強化につなげた。

ICTに不慣れな私にとっては、このような取組は、デジタル技術への理解が進むことが望めるものであると感じた。

お忙しい中、議会改革特別委員会の上田委員長はじめ、議会事務局の職員の皆様、ありがとうございました。

